

吉野先生へ

吉野先生、11年間高知でのご活躍、本当にお疲れさまでした。高知女子大学での本業はもちろんのこと、高知の社会福祉全般において先生の影響は、大変大きかったと思います。その中でも視覚リハの分野においては、11年前に高知に赴任してきた吉野先生と、訓練士の勉強を終えて高知に帰ってきた私が出会ったのは、今振り返ってみても運命的な出会いだったと思います。

歩行訓練士として働く場所がなく、自分が学んできたことが活かすことができなくて、もどかしくてもどかしくて、初対面の先生の前で、拭いても拭いても溢れてくる涙をぬぐいながら、盲ろう福祉会館の片隅で語ったことは今でも鮮明に覚えています。

その後、吉野先生と二人三脚の啓発活動を必死で行った頃は、本当に地道な活動でしたが、小さな変化に一喜一憂し、毎日のように先生と夕食を共にし、会えない日は夜遅くまで電話で話しをし、当時は家族や彼氏よりも吉野先生と過ごした時間が長かったように思います。出る杭打たれるがごとく、二人して辛い思いをすることもしばしばでしたが「大丈夫よ。出過ぎた杭はそのうち打たれなくなるんだから。」と口癖のように言いながら乗り越えましたよね。

昨年は、長年の夢であった「視覚障害リハビリテーション研究発表大会」を高知で開催することが実現しましたね。私達が、高知での地道な活動がんばる活力となった大会、がんばった実績を発表して、自分たちのやってきたことを振り返り確認する場。そんな大会を高知で開催するという事は、本当に高知県にとって大きな財産になったと思います。

シンポジウムで発表するにあたり、今までの活動を振り返ることとなり、先生とのいろんな思い出も思い出しました。

ルミエールサロンができた当初、たくさんの講演会や出張機器展示などの企画で忙しく飛び回り「これが打ち上げ花火で終わらないようにしなければね」と話したことでしたが、8年が経過し吉野先生が東京に戻られる日を迎えた今、また私は育休中で現場を離れているわけですが、それでも高知の視覚リハが止まることなく継続されているということは「高知に視覚リハはしっかり根付いた」という証拠であると思います。

昨日、先生のブログを読んでいると「高知での最後の仕事」という言葉に、本当に高知を離れられるんだなと、とても寂しい気持ちになりました。

吉野先生が高知を拠点に活動する最後の年に、産休・育休をとることになり、リハ大会を始め、吉野先生と全力で一緒に仕事ができないことが、とても悔やまれてなりません。そして先生が高知を離れることは、とても不安でもあります。

ですが11年前とは今は違います。たくさんの視覚リハを理解してくれている仲間がいます。そして訓練指導員の仲間もいます。吉野先生もきっと、東京が拠点になっても、何かあれば高知まで飛んできてくれることと思います。

吉野先生、たくさんの仲間が待ちゆうき、第二のふるさと高知に、いつでも里帰りしにきてくださいね。

2010年2月9日

別府あかね